

マリンサイエンスゾーンに係わる協定の締結

マリンサイエンスゾーン担当室長兼副課長 上田 幸男

Key word; マリンサイエンスゾーン, 徳島大学, 阿南高専, 研究開発, 人材育成

徳島大学と徳島県水産研究課はこれまでもヒジキ，ワカメの養殖技術の開発，農林水産業に関わりのある徳島大学工学部・生物工学科の「農工連携スタディーズ」への県職員の講師派遣などにおいて連携してきました。平成 28 年 4 月に徳島大学に，本県の悲願でもあった水産学を含む農学系の「生物資源産業学部」が，関係者の尽力により開設され，水産研究課鳴門庁舎に隣接して，新学部の「水圏教育研究センター」が，実験・実習施設として整備されました。

阿南高専と徳島県水産研究課は平成 22 年度から LED 集魚灯や漁網に対する魚群の行動解析，魚型ロボットによる魚群の制御技術の開発などの科研費を活用した共同研究に取り組んできました。また，3 者が連携して，ヒジキ，ワカメなどの海藻の加工機械の開発・普及にも取り組んでいます。



写真 1. 飯泉嘉門徳島県知事，野地澄晴徳島大学長，寺沢計二阿南工業高等専門学校長により，平成 28 年 7 月 15 日に協定が締結されました。

一方，徳島県水産研究課は平成 28 年度完成を目途に美波庁舎の研究・防災棟の建設及び本館の耐震補強等の機能強化を図っています。研究・防災棟には徳島大学や阿南高専などが利用できるサテライト研究室が設置される予定です。

これらを機会に 3 者が連携を一層強化し，水産分野に係る研究開発・人材育成の取組の「深化」を図ることを目的に平成 28 年 7 月 15 日に「徳島県，国立大学法人徳島大学及び独立行政法人国立高等専門学校機構阿南工業高等専門学校との徳島県水産業の成長産業化及び関連産業の振興に関する協定」が締結されました。

協定書にはそれぞれが持つ強みを活かして次世代を担う人材の育成と研究開発を進め、新たなイノベーションを創出するため、水産研究課及び徳島大学生物資源産業学部水圏教育研究センターが中核となる水産海洋分野の知の集積拠点「マリンサイエンスゾーン」を形成し、充実させるとともに、三者が連携して以下に取り組むことが記されています。

- (1) 地域や水産業を支える人材の育成に関すること。
- (2) 水産海洋資源や先端技術を活用した研究開発に関すること。
- (3) 三者が有する人的資源及び物的資源等の相互活用に関すること。

マリンサイエンスゾーンは水産研究課鳴門庁舎と水圏教育研究センターから構成される鳴門マリンサイエンスゾーンと水産研究課美波庁舎と県有種苗生産施設から構成される海部マリンサイエンスゾーンからなります。また、徳島県には徳島科学技術高校なども含まれています。

今後、鳴門マリンサイエンスゾーンでは、ワカメ、ノリなど海の野菜の生産技術の開発、ハモ、マダイ、アシアカエビなど本県ブランド魚介類の漁獲と品質向上技術の開発と普及、栄養塩管理技術の開発、海部マリンサイエンスゾーンではワカメ、ヒジキなど養殖技術と加工技術の導入と普及、アワビ、イセエビ、アオリイカなど県南の基幹資源の漁獲と品質向上技術の開発と普及、LEDを用いた増殖と漁業技術の開発及びドローンを用いた藻場等調査技術の開発などで連携していく予定です。